Greens Column

Event

「ありがとう江川正幸さん」in 白神

ともに未来に何を残すかを考える「白神山地アートミュージアム」構想

「生命誌写真家」として独自の視点で調査・研究 撮影を続けてきた江川正幸氏が、この9月に急逝した。マタギとともに森に入り、マタギでも遭遇するのは稀な山の神の使いとして知られる「ミナグロ」と呼ばれる胸に白い輪を持たない全身真っ黒なツキノワグマの撮影に成功するなど、彼の作品は命への畏敬の念に溢れている。

その江川氏を偲ぶ「ありがとう江川正幸さん」in白神が10月23日、有志によって秋田県八峰町の農家民宿「花みずき」にて作品展示とともに開催された。もともと江川氏は国内外のブナ原生林の力強さに着眼し、自然やそこに生きる野生動物の命を守ることが平和や人間の尊厳を守ることにつながるとの考えのもとに、それらを後世に残す交流の場「白神山地アートミュージアム」という構想を持っていた。それは一時、白神山地西部のブナ原生林に囲まれた十二湖の畔で芽吹き始めたものの、さまざまな確執のもとに今年7月に幕を閉じた。

「ありがとう江川正幸さん」の動きは、その遺志を継ぐものだ。彼らは、施設・建物(ハコ)としての「白神山地アートミュージアム」に拘らず、江川氏が遺した作品を通じて氏が問い続けてきた「自然そのものが芸術」という考えを具現化すべく、ともに自然や命の大切さを伝え、残し続けていこう仲間とつながろうとしている。ここにきて、地球の環境・気候に関する問題を解決しようとする機運が高まってはいるが、その多くは「人間起点」の発想に立脚している。しかし、地球は人間だけではなく、動物たちや森・林・海・川・湖……、あらゆる命の循環によって構成されている。「白神山地アートミュージアム」の動きは、そこに立ち返ることの大切さを教えてくれた。

6歳の子どもを持つ有志の1人は、秋田でも開発が進んでいる大規模洋上風力発電を強く危惧する。たとえ再生可能エネルギーであっても、生態系を変えてしまう恐れがあるものを未来に残していいのか? エネルギーを大量消費する側の首都圏で暮らす僕は、彼の問いに答える術がなく、都会の人間こそ、いま地方に目を向けるべきだと実感した。

「白神山地アートミュージアム」の活動は11月10日に秋田市でも開催され、有志たちは全国の仲間たちと「構想を拡げていきたい」と願う。興味・関心を持ち、自分たちの活動に江川氏の作品を組み入れてみたい方は、僕のメールアドレスにご一報願いたい。

奥平 等　㈱メディア・パラダイム研究所主宰　totch@media-paradigm.co.jp

「白神山地アートミュージアム」の活動を発信する Facebook グループ
「つながるいのちの白神(クニ)で」

Cinema

ドキュメンタリー映画『オレの記念日』

毎日が「記念日」?!　1 人の「人間」の生き方から学ぶ人生論

金 聖雄監督の冤罪ドキュメンタリー映画「オレの記念日」……。こうした紹介に、金監督は辟易しているかもしれない。冤罪をテーマとした先の 3 作注を含めて、常に「人間そのもの」に着眼してきたからだ。

当然、本作も「新たなヒューマン・ドキュメンタリー」に仕上がっている。「記念日」という言葉が、それを象徴する。「記念日」は壮絶な人生を歩んできた「布川事件」の冤罪被害者・桜井昌司さんの日々そのものであるが、それは若くして不当に逮捕され、有罪判決を受け、49 歳で仮釈放された後の再審請求から無罪判決、そして国家賠償という完全勝利を勝ち取った軌跡に留まらない。獄中で見送った両親への無念、仮釈放後に出会った妻・恵子さんとの愛、「冤罪犠牲者の会」を立ち上げて全国を駆け巡る中での元冤罪被害者や応援する市井の人たちとの出会い、シンガーソングライターとしてのライブ活動……。映画は、毎日が「記念日」といっても過言ではない桜井さんの精力的な生き方を追う。そこに内包された人間愛が、世知辛い世にあって失いかけている我々の喜怒哀楽を蘇らせる。

ちなみに、布川事件は専門家の間では単なる冤罪事件ではなく、「捏罪事件」だといわれている。自白や目撃証言の乖離を検証することなく、むしろ都合がいいように証拠を捏造していたからである。怖いのは、捏造する側が相手をしっかりと品定めしていることだ。桜井さんの場合はやんちゃが絶えない不良であったこと。狭山事件の石川 一雄さんの場合は部落問題が絡み、他にも困窮などを理由に犯人に仕立てられるケースなど、その手口は枚挙にいとまがない。それらは「○○だったら、世間も納得する」というロジックの上に成り立っている。そして、そのロジックは沖縄の基地問題や原発など、「地域」へも向けられている。

最後になるが、桜井氏は 2019 年に直腸がんが判明し、転移もあったことから医師から余命宣告を受けている身でもある。それでも氏はバイタリティを持って、「オレの記念日」を続けている。その重みはこれまで以上に増していくに違いない。

注:「獄友(2018 年)」、「袴田巌 夢の間の世の中(2016 年)」、「SAYAMA みえない手錠をはずすまで(2014)」

奥平 等　㈱メディア・パラダイム研究所　ジャーナリスト、マーケティングプランナー。「1 人ひとりが違う」を唯一の生きる指針とし、未来の子どもたちに「お互いに受容・寛容しながら、対話できる世の中」を残したいと願っている。

ドキュメンタリー映画『オレの記念日』

監督:金聖雄
ドキュメンタリー映画
日本/2022年/カラー/104分

Music

Dr. John『Things Happen That Way』

アメリカ、そして世界を憂いながらも心に沁みる待望の新作

2019 年に亡くなったドクター・ジョンの遺作がやっと発売された。レコーディングから発売までの3年の空白の意味は知るべくもないが、随分と長い間待っていた気がする。ニューオリンズの、と言うよりアメリカンルーツミュージックの至宝であるドクター・ジョンが残してくれたアルバムは彼の娘の手によりプロデュース(エグゼクティブプロデューサー)され、彼のオリジナル曲に加え、ジョニー・キャッシュ、ハンク・ウィリアムズ、ウィリー・ネルソン、トラヴェリング・ウィルベリーズ !! らのカバー曲を、そしてウィリー・ネルソンとのデュエットも聴かせる。

ドクター・ジョンの名を世に知らしめた 1972 年の名作「ガンボ」はニューオリンズの名物料理の名に由来する。「ガンボ」はオクラを使った具材多めのスープで オクラ(okra)は英語、フランス語やイタリア語ではゴンボ(gombo)と言い、その地域の成り立ちゆえのミクスド文化料理と言える。そして彼の音楽もまた、その地域に根差したミックスド・ミュージックと言えるのではなかろうか。ニューオリンズはクレオール(フランス、スペインからの入植者=ニューオリンズ生まれの人々)、ケイジャン(入植した北米アケイディアン地方から追われてきたフランス人)そしてさらに逃亡黒人奴隷とそれを匿ったと言われるネイティブアメリカン部族とのミックス(注)と、その子孫たちが多く居住するエリアだ。つまりはニューオリンズこそ多様性の坦堝だったのだ。ドクター・ジョンの音楽を聴き、そのルーツに想いを馳せることは、すなわちミクスド文化とその多様性に想いを馳せることに他ならない。

あらゆるジャンルの音楽をその身で体現してきたドクター・ジョンの世界へようこそ。

注:なぜ黒人(に見える人々)がインディアン(と言われて来た民族)の衣装を身に纏ってお祭り(マルディグラ)を開催するのかが理解できる。

佐藤 ユキオ　曙橋「Bar 461」店主。20 歳から飲み屋稼業に従事し、37 歳で同店を開業。オヤジ Band 大会で優勝経験を持つ、ドラマーでもある。店では小規模ながら温かい Live を実施。数多くのアーティスト、ミュージシャンと交流を持つ。
http://www2.odn.ne.jp/bar461/

LIVING ON MERCY
Dan Penn
2,600 円+税

Greens People

地域からジェンダー平等を

地方選挙から20代30代女性政治家を増やしたい!

グリーンズピープル第5回は、若者の政治参加、選挙への立候補を支援する FIFTYS PROJECT 代表、能條桃子さんにお話を聞きました。現在の日本の政治におけるジェンダーギャップは、144位中139位という厳しい現実があります。プロジェクトでは、来年4月の行われる統一自治体選挙に、20代、30代の女性たちが「立候補という選択肢」を広げるための具体的な活動に取り組んでいます。10月に実施したクラウドファンディングには、多くの支援が集まり、750万円(640名)の目標を達成しました。能條さんは、若者の立候補者を増やしていく制度として、まず「被選挙権年齢の引き下げが」が重要。また公職選挙法を使った公的資金の使い方など、つまりはお金がなくても選挙に立候補できる選択肢の拡大が必要と考えているとのことです。私たちの仲間の中にも、若い女性の立候補予定者がいます。政治におけるジェンダーギャップの解消という、能條たちプロジェクトの目標を、一緒に取り組んでいきたいものです。

FIFTYS PROJECT https://fiftysproject.com/

一般社団法人NO YOUTH NO JAPAN代表理事・FIFTYS PROJECT代表・慶應義塾大学院生　**能條　桃子**さん

編集後記　衆院選を通じて感じたこと。それは地域からの多様、かつ大量の社会運動が必要なこと。選挙で社会は変わるが、選挙だけでは変えられないのだ。UPROOT THE SYSTEM・・地域から根こそぎ変えていこう!ミュニシパリズム(地域主義)の出番です。(R)

緑の党 グリーンズジャパン 東京
発行:緑の党グリーンズジャパン東京都本部
〒165-0026 東京都中野区新井 2-7-10 サンファスト 301
TEL:03-5364-9010 / FAX:03-3389-0636
https://greens-japan-tokyobranch.jimdo.com/

編集　大場 亮　編集協力　デザイン:石井 千春、撮影:山下 恒夫、取材・編集・執筆:奥平 等、取材協力:芹澤 悦子